

心のままに 恵那南中学校だより

令和8年度 4月号



恵那市山岡町下手向 182-4 TEL 26-6882

みんな仲間になったでね

校長 後藤 琢磨

5つの地域の仲間が集まり、全校生徒数が329名になりました。仲間がこんなに増えて、生徒たちはどんな気持ちでしょうか。

生徒たち、実は初対面ではありません。交流会と称して、同学年の仲間とはすでに何度か出会っています。

交流会のことを思い出すと、交流会そのものよりも、短い休憩時間に生徒の本音が見えました。交流会は、意図的に作られたグループに分かれて、自己紹介やレクリエーションを行ったのですが、出会ってすぐに会話が弾むのは、なかなか難しいようです。

「それでは休憩です。」その言葉で、緊張感が一気に吹き飛びました。多くの生徒が、同じ学校の仲間や先生の元に集まりました。知っている者同士がいかに安心できる存在かを実感しているようでした。

そんな様子をボーッと見ていると、一人の生徒が、私の近くに寄ってきました。続いて別の生徒も寄ってきました。やがて、二人は私の近くをうろろと動き回りました。しばらくすると、一人がひとり言をつぶやき、もう一人がそのひとり言を聞いて言葉を交わしました。私は、その様子を笑顔でそっと見ていました。

「なるほど、友情ってこうやって生まれていくんだ。」と思いました。二人の会話の中に私は入っていませんが、その子たちは、教員である私の近くだから安心して動き回り、安心してひとり言をつぶやき、安心して会話をしたのではないかと考えます。

休憩時間の様子をさらによく見てみると、こんな生徒もいました。一人ぼっちでいる子に、思い切って声をかけている生徒です。その声のかけ方が絶妙で、相手の反応に合わせて、言葉や声のトーンが圧を感じさせないように気を配っていました。声をかけた生徒はかなりの勇気が要ったと思いますが、話し終わるとほっとした顔をしました。

学校の主役は生徒です。生徒一人一人がドラマの主人公です。それぞれの物語が、毎日ハッピーエンドで続くように、私たちは名脇役となり、支えています。

さあ、ドラマは始まりました。舞台は恵那南中学校です。仲間が増えたということは、登場人物が増えたということです。保護者・地域の皆様も増え、とても心強いです。

一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

